

福島第一原子力発電所の状況

2015年4月7日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (4/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.0 m ³ /h	16.6 °C	0.4 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.3 m ³ /h	23.0 °C	6.37 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h	19.9 °C	0.21 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約1.8 m ³ /h			B系： 0.07 vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (4/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	17.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	19.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	15.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	12.3 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	3/26 10:14 ~ 移送実施中

・2015/4/7 9:35~11:05 共用プールLCW廃液受タンク水について、集中廃棄物処理施設高温焼却炉建屋への移送を実施。なお、移送停止後の状況については、屋内及び屋外パトロールを実施し、漏えい等の異常がないことを確認。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/7 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・2015/2/5~ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
4/2~ トンネル天井部の充填作業を開始。
- ・2015/2/14~ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
2015/2/24~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
- ・2014/6/2~ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/3/16~ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。

- ・2015/4/2 13:00 頃、福島第一原子力発電所第二保管施設において、協力企業作業員がボックスカルバート*内に収納されている高性能容器(HIC)の確認作業を実施していたところ、HICの上部に溜まり水があることを確認。

*ボックスカルバート 鉄筋コンクリート製の箱型保管施設。ボックスカルバート内にはHIC2基を収納。

その後、HICに触れた際、HIC蓋外周部のベント孔より水が滴下したことを確認。なお、ボックスカルバート外への漏えいはなく、当該作業にあたった15名の作業員への汚染はない。

現在までに61基のHICの現場調査を実施しており、既に公表している4基のHIC以外に水たまりは確認されていない。

また、各ボックスカルバート内のHIC蓋外周部に溜まった水の分析結果は以下のとおり。

【AJ5】

セシウム 134 $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 セシウム 137 $6.8 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 全ベータ $3.0 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$
 トリチウム※

【AJ8】

セシウム 134 $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 セシウム 137 $7.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 全ベータ $3.9 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$
 トリチウム $1.5 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$

※採取できた試料が少量であったことから、分析を実施していない。

【AK8】

セシウム 134 $1.8 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 セシウム 137 $6.3 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 全ベータ $1.2 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$
 トリチウム $1.4 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$

【A1】

セシウム 134 $3.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 セシウム 137 $1.6 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$
 全ベータ $7.6 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$
 トリチウム $1.4 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$

[参考]

HIC内の水については実際に分析を行っていないが、 10^5Bq/cm^3 の原水(主にストロンチウム)を100倍程度濃縮した水(10^7Bq/cm^3)を収納する設計となっている。

原因調査のため、引き続き、他のHICについても継続して現場調査を行うとともに、水溜まりを確認したAJ8については、4/8以降に増設多核種除去設備建屋内のHIC保管エリアへ移送し、準備が整いしだい、HICの上蓋を解放して内部の調査を行う予定。

- ・2015/4/4 地下水流入抑制対策による地下水位の低下に伴い、建屋滞留水水位を低下させる必要があり、建屋内に滞留水移送ポンプ並びに水位計の設置を進めている。新たに削孔した穴より水位を測定した結果は2015/3/26に公表済みであり、このうち、1号機タービン建屋所内ボイラー室水位はO.P.4900mm(3/17測定)である。

一方、周囲の地下水位は継続監視しているが、最近、降雨量が少ないことから低下傾向が見られ、4/4に測定した同ボイラー室近傍のサブドレンN1の水位は、O.P.4917mmだった。

なお、同ボイラー室は他のエリア(建屋内)からの流入がない(連通性がない)こと、および建屋外からの地下水の流入がないことを確認している。

- 4/5 12時時点におけるサブドレンN1の水位はO.P.4943mmであり、水位が4/4から上昇。4/5は福島第一原子力発電所構内において降雨が見られている。

今後も水位監視(所内ボイラー室水位およびサブドレン水位)を継続するとともに、準備が整い次第、所内ボイラー室からの滞留水の移送を行う。

- 4/8 1号所内ボイラー室および1号ディーゼル発電機(B)室については、仮設ポンプを使用して1号機タービン建屋への移送を順次開始予定。なお、1号機所内ボイラー室の水位と近傍のサブドレン水位の逆転の可能性があることについて、4/4より水位の監視をしているが、これまでもっとも低い水位は4/7 12:00時点におけるサブドレンN1水位でO.P.4910mmだった。

- ・2014/8/29 12:45 頃、3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓が当該プール東側中央付近に落下したことを受け、当該プール水のサンプリングを継続実施中。放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

・使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:2015/4/6)

- ・セシウム 134: $1.3 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$
- ・セシウム 137: $4.8 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$
- ・コバルト 60: $1.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1~12 のサンプリングを継続実施中。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上